

2024年  
10～12月期

# 廿日市市景況調査

Economic survey

## 廿日市エリアの景況

※旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果

産業別の業況DIは、製造業が前回値(▲15.4)から今回値(20.0)、建設業が(0.0)から(0.0)、卸小売業が(▲28.6)から(0.0)、飲食・サービス業が(▲14.3)から(▲5.9)であった。全産業合計の業況DIは2.4ポイントと前回調査(7～9月)から7.4ポイント改善しプラスに転じた。

製造業では製品・商品販売価格の上昇や設備投資の需要増加の影響を受け、売上が改善した。また、小売業・飲食・サービス業は、年末需要の下支えや、インバウンドおよび国内観光需要が堅調に推移したことから売上改善の声が聞かれた。一方、あらゆるコストが増加しており、価格転嫁や人手不足などの課題は根強い。

### 事業者の声

|         |  |
|---------|--|
| 【製造業】   | <ul style="list-style-type: none"><li>・前年比では原材料費、エネルギーコスト等のアップ、および受注難により景況感は悪化。先行きに関しては製品価格転嫁の効果が出てくるため景況は好転する見込み。(樹脂製造)</li><li>・取引業界が好調に推移している。(機械部品製造)</li><li>・仕入れ価格の上昇と需要の下げ止まりの兆候が見られる。(木製品製造)</li></ul>   |
| 【建設業】   | <ul style="list-style-type: none"><li>・大型案件の受注があり好転。(解体)</li><li>・社会のIT化、また再エネ関連の進捗により受注増。(設備工事)</li></ul>   |
| 【卸小売業】  | <ul style="list-style-type: none"><li>・需要が減退している。(建設資材販売)</li><li>・仕入れ価格上昇のわりに、販売価格が上がっていない。人件費は上がるが、売上は伸び悩んでいる。(飲食料品販売)</li><li>・従業員数と業務量のバランスが取れてきた。(菓子製造販売)</li></ul>   |
| 【サービス業】 | <ul style="list-style-type: none"><li>・店舗出店や改装に投資される顧客が多くなっており受注状況は順調。(企画制作)</li><li>・観光客を中心とした客数の回復と単価アップ。(宿泊)</li><li>・工事費が高騰し、賃貸マンションの建設が減少している。(設計)</li><li>・業務整理に伴い売上げ減。来年度の活動に向けた人材の積極投資に伴い利益減。(サービス)</li><li>・人流が回復したことで外食等が回復した。野菜高騰によりカット野菜などの取扱量が増加。(運送)</li><li>・業務効率化に取り組み、利益率が向上した。(サービス)</li></ul> |

### ●DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

収入・売上：(増加) - (減少)      仕入価格：(上昇) - (下降)

採算・業況：(好転) - (悪化)      雇用人員：(過剰) - (不足)



| 業種別景況<br>概要 | 前年同期  | 10～12月と先行き見通し |       |       |       |       |       |       |       |          |       |
|-------------|-------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|
|             | 全産業   | 全産業           |       | 製造業   |       | 建設業   |       | 卸小売業  |       | 飲食・サービス業 |       |
|             | 対前年比  | 前年比           | 見通し   | 前年比   | 見通し   | 前年比   | 見通し   | 前年比   | 見通し   | 前年比      | 見通し   |
| 収入・売上       | 14.6  | 0.0           | ▲14.3 | 10.0  | ▲10.0 | 16.7  | 0.0   | ▲33.3 | ▲44.4 | 5.9      | ▲5.9  |
| 仕入価格        | 66.7  | 61.5          | 51.3  | 50.0  | 30.0  | 83.3  | 66.7  | 88.9  | 77.8  | 42.9     | 42.9  |
| 採算          | 36.6  | 42.9          | 33.3  | 70.0  | 40.0  | 16.7  | 33.3  | 44.4  | 22.2  | 35.3     | 35.3  |
| 雇用人員        | ▲40.0 | ▲47.5         | ▲47.5 | ▲50.0 | ▲40.0 | ▲83.3 | ▲83.3 | ▲44.4 | ▲33.3 | ▲33.3    | ▲46.7 |
| 業況          | 14.6  | 2.4           | 4.8   | 20.0  | 10.0  | 0.0   | 16.7  | 0.0   | ▲11.1 | ▲5.9     | 5.9   |
| 前回調査        | -     | ▲5.0          | 10.0  | ▲15.4 | 7.7   | 0.0   | 16.7  | ▲28.6 | 0.0   | ▲14.3    | 14.3  |

(対象 63 社 回答 42 社)

■設備投資は？

回答 42 社中

| R6. 10～12月  |      |    | 1～3月<br>見込み |
|-------------|------|----|-------------|
| 実施した<br>・する | 土地   | 1  | 1           |
|             | 建物   | 3  | 5           |
|             | 機械備品 | 10 | 8           |
|             | 車両   | 11 | 5           |
|             | IT機器 | 8  | 7           |
|             | その他  | 2  | 2           |
|             | 計    | 35 | 28          |
| 実施していない・しない |      | 18 | 22          |

■当面の問題点は？

※回答のその他はランク外扱い

|     |               |       |
|-----|---------------|-------|
| 第1位 | 人件費が増加している    | 20.5% |
| 第1位 | 従業員や人材の確保が難しい | 20.5% |
| 第3位 | 材料費や仕入価格が上昇   | 18.8% |
| 第4位 | 売上、需要が増えない    | 12.5% |
| 第5位 | 消費者ニーズが変化してきた | 6.3%  |

